

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300628		
法人名	有限会社 タカノホーム・スイート		
事業所名	グループホーム おいでませ		
所在地	山口県山口市大内御堀832-2		
自己評価作成日	平成24年4月22日	評価結果市町受理日	平成24年9月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 24年 5月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通の場所で、普通の家で、普通の家庭的な暮らし。入居者の皆さんが、安心して暮らせるように、普通の民家を改装して、お世話をさせていただいております。一般の家庭と同じように、段差もあり、入浴も普通の家庭で使用している浴槽で行っております。施設ではなく、普通の民家で、暮らすことで、地域住民とのつながりを持ちながら、季節を感じる事で、抵抗力をつけながら生活できるように、援助させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調理専門の職員を確保されて、三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者は、一人ひとりできることを職員といっしょにしておられ、同じ食卓を囲んで会話を弾ませて食事を楽しまれています。事業所の理念にそって、利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にされ、人生の先輩として敬意を払って接しておられます。職員と利用者の関係が和やかで、日々の寄り添うケアで利用者は穏やかに過ごされています。事業所は、民家を改造した建物で、自宅の延長としてのたたずまいがあり、家庭的な雰囲気の中、明るさや音、温度、湿度、換気、生活感、季節感に配慮され、利用者が居心地よく過ごせるように支援しておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『人としての尊厳・自己決定を大切に、住み慣れた環境で、その人らしく暮らせるよう支援します』を常に頭におき、考えお世話をしている。	地域密着型サービスとしての理念をつくり、事業所内に掲示して共有し、理念を実践につなげている。管理者や主任は、日常業務の中でその都度、理念にそっているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、月当番や清掃作業に参加、ホーム便り年4回配布したり、避難訓練、行事なども参加して頂いている。	自治会に加入し、地域の清掃作業に職員が参加する他、事業所が地域の当番になったときには、利用者と一緒に市の広報誌の配布をするなど、地域の人と関わりを持っている。事業所が主催する避難訓練や、その後の餅つき大会に地域の人の参加があり交流している。近くの「TYSまつり」に出かけたり、学生ボランティア(話し相手やゲーム)の訪問や、音楽バンドの訪問があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議で議題にし、意見を求めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	月1回のミーティングで話し合い、改善に取り組んでいる。	評価の意義について説明し、理解した上で全職員で自己評価に取り組んでいる。目標達成計画(22年、23年)について、できるところから取り組み、具体的な改善に努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の推進会議で、意見をもらい、話し合い、向上に活かしている。	年6回開催し、事業所の状況、活動、研修の実施などについて報告し、意見交換をしている。地域のサロンに参加してはという意見を活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	山口市介護サービス連絡協議会に加入し、本部会、施設部会に参加し、情報の提供や収集を行っている。研修会にも参加している。	市の担当課とは、電話や出向いて、書類提出、相談、情報交換などをし、連携を図り、協力体制を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを基準に原則としている。居室に鍵はなく、玄関、窓は施錠していない。研修を受け内部研修を行ったり全員で理解に努め、普段からお互いに注意しあうように気をつけている。	マニュアルがあり、ミーティングや内部研修で身体拘束について、職員は正しく理解し、拘束や抑制のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。スピーチロックについては、職員間で注意しあい、拘束しないことを徹底している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで取り上げ防止に努めている。現場で職員間で虐待に当たらないか検討しながら対応している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人は現時点ではないが、制度については研修会に参加し、報告、資料回覧をするなどして、共有するよう努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	意見、不安感、疑問点を尋ね、十分に説明を行い、理解、納得された上で契約している。解約も同様。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。話しやすい雰囲気づくりに努めてもいる。	電話や面会時、運営推進会議などで家族から意見や要望を聞いている。毎月1回、家族に対して、利用者の様子を伝えるカラー写真と職員手書きの手紙、本人からの手紙など送付している。利用者や家族からの意見や要望は申し送り簿に記録し、運営に反映させるよう努めている。意見箱の設置をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い、職員の意見や提案を話し合い反映させている。	月1回のミーティング時に意見や提案を聞く他、日常の業務の中で運営者(管理者)や主任が意見を聞き、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望を出来るだけ反映させた勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいに繋げるよう配慮している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が積極的に研修、勉強会に参加できるよう参加費を一部補助している。	外部研修は、職員に研修の情報を伝え、希望する内容によって、勤務の一環とするか自主参加として、参加の機会を提供している。内部研修はテーマを決めて、外部から講師を招いて全職員を対象に実施している。新人職員には働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に所属し、勉強会や研修に参加、ネットワーク作りをし、交流、情報交換をしている。お互いの施設見学なども行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に必ず本人にも見学してもらい、話を聞いたり、体験をしてもらい、少しでも不安を解消でき、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時には、家族の思いを聞き、受け止めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じ、他のサービスが必要であれば、他事業所を紹介することもある。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、尊厳ある態度で接するよう心がけ、日常の生活場面で教わったり見習うこともある。一日一回は笑顔になってもらうよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子をお知らせしたり、行事に参加してもらったり、ケアプランを作成し、相談をしている。家族の支援が必要であればお願いしている。一部の家族は面会も少なく、あまり情報提供できていない。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪ねて来られたり、家族と馴染みの場所へ外出したりしている(理美容院など)	月1回、協力医療機関に受診に行く際に、自宅周辺をドライブしている。家族の協力を得て、行きつけの理美容院に行ったり、誕生日の外出や外食に出かけるなどしている。知人や友人の訪問もあり、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の状態に応じ、利用者同士がよい関係を保てるよう、座る位置を配慮したり、職員が間に入り雰囲気作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、家族の方に近況を伝え合ったり、入院された方のお見舞いや他施設に面会に行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族にどうしたいのか、どうしてやりたいのかを聞き、意見に沿って話し合いプランを作っている。本人の意向がわかりにくい状況においては、家族に相談したり、日常生活の中で感じとったり、把握し進めている。	入居者のアセスメント(フェースシート)やセンター方式のシートを活用する他、日々の関わりの中で、利用者に寄り添って話を聞き、思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、家族から聞いたり、利用者の表情や行動から推し測るなどして本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時から生活歴、生活環境の情報収集をし、本人、家族との会話からも知り得た情報は書き足し、思いなど把握するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をし、職員間で共有し定期的に評価している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では充分話し合い、検討し、家族の要望を取り入れ作成しているが、なかなか意見を聞けない家族もあるので作成後の報告となってしまう事もある。	利用者を担当している職員が本人や家族から聞き取った意向や、利用者の状態についてミーティングで話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。6ヶ月毎にケアカンファレンスを行い、モニタリングや見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をきちんと記入し、評価の欄にも気づきや結果など記入、申し送ったりし情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、変化に合わせ、意見、意向を聞きながら、調整し、対応策を検討している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントへ参加したり、施設内での行事や防災訓練への参加もしていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず毎月一回は定期受診に行き、相談、指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるよう支援している。家族へも報告をしている。	本人や家族の納得を得て、全ての利用者は、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の受診の支援や家族の協力を得て、それぞれ他科受診の支援をし、必要な情報を提供して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に気軽に相談ができ、アドバイスをもらう関係を築いている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い、情報を提供、入院中は情報を提供してもらい、早期退院ができるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、スタッフ、協力医と話し合いだいたいの方針は決めているが、実際にその場になると状況、気持ちは変わってくるのでその都度話し合っている。終末期まで利用予定の方がおられたが、支援の限界があり、主治医、スタッフ間で話し合い、検討した結果病院へ移られた事例がある。	重度化や終末期について、事業所でできる対応について、契約時に口頭で家族に説明している。実際に重度化した場合は、状態に変化がある都度、主治医や家族、職員、関係者等で話し合い、共有して支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故や急変者が出た時など、日頃から職員全員で対応について話し合いマニュアルを作成しているが、一年以内に訓練は行っていない。	ヒヤリはつとや事故報告書に記録し、その場にいた職員で話し合い、ミーティングで対応策を検討して、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方と話し合いマニュアルを作成している。近所の方とも、普段から、災害時には手助けしてもらえようようお願いしている。避難訓練も行っている。	火災時を想定した避難訓練を年2回実施している。地域住民の参加があり、避難誘導や見守りなどの協力を得ている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴、更衣などには特にプライバシーに配慮している。言葉遣いには気を付けているが、命令口調、禁止口調になっていることが時々ある。	人としての尊厳を大切にするという事業所の理念にそって、利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉づかいや対応をしないように心がけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを出来るだけ聞き出し、感じ取るように努め、自己決定出来るよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決めているが、個々の体調や気持ちを考慮し、本人のペース、希望に沿うよう心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院へ家族、スタッフと出かけたりしている。好みに応じて衣服を着ていただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食材を切ったり、食事の後片付けをお願いしている。普段の会話の中から好みのものを聞き出し、献立にいれたりすることもある。	調理専門の職員を確保し、事業所で三食とも食事づくりをしている。利用者は野菜の下ごしらえや食材を切ったり、下膳や食器洗い、食器拭きなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み、同じものを食べながら会話を弾ませて食事を楽しんでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた食材を取ったり、職員が栄養、バランスを考えている。水分補給については、職員が摂取量を把握し、不足しないよう注意している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の管理を含め、個々の状態にあったケアをしている。夜間はそれぞれの容器に入れ、洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは使用していない。排泄チェック表をつけ、排泄パターンを把握し、声かけを行っている。個々の状況に合わせ、パンツ+パットを使用している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせてさりげない声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、水分摂取量、食事量、下剤等調整を行っている。腹部マッサージも行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からの入浴を行っているが、個々の体調を配慮し、午前に入浴されることもある。希望や必要があれば毎日でも入浴ができるようにしている。湯温、量の調整は個々に合わせて楽しめるよう支援している。	入浴は14時から16時まで、1日置きに可能で、ゆっくり入浴を楽しめるように支援している。入浴をしたくない人には職員が交代したり、声かけに工夫するなどして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調、希望にあわせて昼寝をしたり、休息ができるようにしている。寝具を清潔に保ち、気持ちよく安全に眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状、体調を把握、理解し、処方内容をいつでも確認できるようそれぞれのファイルに閉じている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、普段から家族や本人に生活歴を聞き、参考にしている。本人の得意な事、出来る事、出来ない事を活かしながら家事、季節ごとに作品作りもしている。お茶の時間には、リクエストがあれば好みのものになっている。	カラオケ、ぬり絵、工作(季節ごとの飾りづくり)、体操、歌、買い物、ドライブ、餅つき、大正琴や文化琴の演奏を聴く、テレビ視聴、ラジオを聴く、新聞や本を読む、コスモスバンド(利用者と職員)の演奏、おやつづくり、食事づくり、後片付けなど楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や、個々の要望によって、近所へ散歩に出かけたり、買い物、ドライブ、庭に出て日向ぼっこをしている。利用者の誕生日などには、家族と外食に出かけられている。	散歩や買い物、ドライブ、季節ごとの花見など戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や必要に応じて対応するが、現在対象者はいない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親戚からの電話を取り次ぎ話してもらっている。利用者の希望によって、電話を出来るよう支援している。手紙も届いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、民家を改修しているので、縁側やウッドデッキで季節の風や空気を感じることができる。食事は三食手作りなので、調理の音や匂いを感じる事も出来る。	民家を改造した事業所の共用空間は、自宅の延長としてのたたずまいがあり、くつろげる場となっている。季節の花が生けてあり、畳敷の縁側にソファを置き、仲の良い人同士が日向ぼっこや会話を楽しみ、ウッドデッキでモーニングコーヒーを飲んだり、庭に咲く季節の花を眺めたり、調理の音や匂いがあり、季節感や生活感を感じることができる。温度、湿度、換気にも配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二人掛けのソファを置いており、必要に応じて移動し、利用者同士の愛称やその日の状態により、座る位置を考えて、居心地のよい空間作りを工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのもの(人形など)や使い慣れた家具、家族の写真を飾ったり、鉢植えを置いたりし、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	ベッドや小ダンス、ソファ、テーブル、洋服かけ、整理ボックス、ラジオなどを持ち込み、家族の写真や自分の作品を飾って、安心して過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普通の民家なので、段差はあるが、手すりを付け、利用者の身体機能に応じて、声かけ、介助している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームおいでませ

作成日：平成 24年 8月 31日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	応急手当や初期対応の定期的な訓練実施	赤十字に応急手当や、初期対応の研修を依頼し、定期的に訓練を実施していく。(年2回)	12ヶ月
2	36	火災時を想定した避難訓練を年2回実施している。地域住民の参加があるが、地域との協力体制を築くまでには、至っていない。	地域との協力体制の構築	氷上地区では、まだ防災組織が出来ていないが、平成24年度中には、組織を作る予定なので、グループホームおいでませとしても、防災組織に参加して、地域との協力体制を構築していく。	7ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。